

浜松運輸区分会情報

発行責任者 山本繁明 2025 年 9 月 3 日 No.1 J R 東海労浜松運輸区分会

J R 東海労浜松運輸区分会第 35 回定期大会開催

人間らしく労働者らしく闘い

平和な社会をつくろう！



分会は、8月28日第35回定期大会を開催しました。あいさつに立った山本委員長は、「袴田さんの浜松袴田さんを救う市民の会や支援団体と連帯してきました。諦めずに闘ってよかった。冤罪事

件を取り組むきっかけは、蒲郡事件で解雇された加藤さんの支援と遡れば浦和電車区事件です。この二つの事件を闘った JR 総連と昨年決別しました。しかし、変わらぬ活動をしていく。J R 東海労を排除しようとしたからです。組合員が7名になった。組織の強化・拡大をやっていこう。身体に気をつけよう。仲間同士困ったときには力を貸そう。地本のキャンプにペルーから日本に来て働いている家族を招待した。有意義な交流ができた。これからも交流連帯をつくっていこう。『日本の不法移民』と言わせたのは参政党の支持があったからではないか。5月3日憲法記念日袋井市民の集いで猿田さんが『戦争をしないためには外交が大切。身近な外国人と交流することも外交です』と言っていた。手の届くところから始めていこう」と一年間の闘いの成果と今後の取り組みを示しました。来賓には本部から本橋書記長、浜松 袴田巖さんを救う市民の会共同代表寺澤さん、植松地本執行副委員長、から激励のあいさつをいただきました。

大会は、組織拡大の成果を確認し「掲示板の有効活用をしていこう」「若い人を支えるために組合員となったしっかり支えていきたい」「業務改革により東海道線が一部ワンマン化され安全が脅かされる」「静岡さつき会が JR センtral 労組 OB 会に加盟した。私たちに対する組織破壊攻撃である」「参政党は日本ファーストの国をめざすと言っている。新日本憲法（構想案）を出している。この運動がすすむとファシズムに近い政治になる危険がある」等意見が出され、方針は満場一致で決定されました。

大会終了後戦争体験を語る会を開催し、OBの根木さんに戦争体験を話していただき戦争の恐ろしさを学習しました。 <内容は次号に掲載>